

防災ガイドブック もくじ

日頃からの備え	1
防災力の向上・減災を目指して	1
災害に備えて日頃から知っておきたいこと	2
避難に関する知識を身につけよう	3
非常用持ち出し袋・備蓄品の準備をしましょう	4
自主防災組織による地域防災	5
地震編	6
風水害編	9
土砂災害編	15
その他の災害編 雪害編／火災編／落雷編／竜巻編	17
指定避難所・指定緊急避難場所一覧	19
避難所生活	21

防災力の向上・減災を目指して

自助

自分や家族の命を自分で守るための行動や備え

- 自宅の安全対策を行い、災害から自分や家族の命を守る
(耐震診断・補強、家具の転倒防止、備蓄など)
- 早めの避難行動
(避難行動とは避難場所へ行くことだけでなく安全な場所へ避難することも含みます)
 - ・ 避難指示が発令されたら、速やかに安全な避難場所などへ避難する。
 - ・ 身の危険を感じたら、避難情報の発令がなくてもためらわず危険な場所から避難する。



共助

自分の地域を自分たちで
守るための行動や備え

- 救出活動や消火活動は、早く始めるほど、そして多くの人に参加するほど、被害を小さく抑えられます。大規模な災害では、いつ到着するかわからない公的機関を待つより、まずは地域で協力・連携することが大切です。

公助

行政や公共機関が担う役割や備え

- 町や消防、警察といった行政機関、ライフラインなど公共機関の応急対策活動を「公助」と呼びます。町はもちろん、各機関は、災害の発生からできるだけ早く、応急対策活動ができるよう備えています。



災害時に必要な三本柱の比率は

自助：共助：公助 = 7：2：1 といわれています。

実際の災害時には近隣住民の力で多くの方々が救出されています。

阪神・淡路大震災では、自分・家族などの「自助」により助かった人が約 67%、友人・隣人による「共助」により救出された人が約 30%、消防隊や自衛隊などの「公助」により救出された人は 2% に満たない割合でした。いかに「自助」が重要か、いかに隣近所との「共助」が頼りになるかがわかります。